

優秀賞

## 給食のおばちゃんクエスト

高崎 未央 (大学3年生：富山県)

### 内容

小学校、中学校、またはオフィスなど、プレイヤーはあらゆる場所や環境で給食のおばちゃん、食堂のおばちゃんになります。

役割は大きく4つ。

①給食や定食を食べる相手を想像しながら献立を決める。主催、副菜、デザートなどの中から「予算」に応じてメニューを決めます。

例えばサラリーマン向けのオフィスでラーメンを出すとよく売れますが、給食で出すと麺が伸びてしまうので「廃棄」が多くなります。

②献立をもとに、食材の発注をする。「女子生徒が多い学校」の給食のおばちゃんの場合、少なめに発注をかける、「健康志向のサラリーマンが多いオフィス」の場合、地元で採れた野菜を多く使う、など、ターゲットに対して調整をすることができます。また、オーガニックの食材は「予算」が多くなりますが、その分「信頼ポイント」が溜まります。発注が多すぎると「廃棄」が増え、少なすぎると「信頼ポイント」が減ります。

③食材をもとに給食を作ります。大根の葉っぱなど、献立に使わない部分の食材は「廃棄」になりますが、①で工夫することで別のメニューに活用することができます。

④ついに給食を提供します！発注量と実際に食べられた料理の差分はお残し、つまり「廃棄」となります。「廃棄」をより少なくし、洗練されたメニューで「信頼ポイント」を溜める、これが「レジェンド給食のおばちゃん」になる道です。「信頼ポイント」に応じて、周りから期待され、「予算」にボーナスが付きまします。

### 目的

食糧廃棄が多い現代において、身近な提供者の気持ちになって食材を考えることが、問題解決の近道になるのではないかと考えました。このゲームの大きなミソはいくつかの場面があり、消費者像が異なることです。なぜ女子生徒は給食を残してしまうのだろう？地元の食材をもっと食べてもらうにはどんな工夫が必要だろう？と「廃棄」以外の部分に関しても問題提起できるような構成になっています。